

令和4年度 第1回深谷市子ども・子育て会議  
議事要旨

日 時：令和4年7月4日（月）午後2時00分～午後4時20分

場 所：深谷公民館 大会議室

出席者：小林 葉月委員、新井 満子委員、荒井 克明委員、押野見 孝道委員、穉山 明美委員、金子 京子委員、佐藤 禎子委員、河西 俊英委員、白井 裕一委員、奥富 庸一委員、戸野倉和美委員、大木 正仁委員、（12名）

欠席者：橋本 亜希委員、粕谷 明委員、神庭 ひろ子委員（3名）

<配布資料>

- ・資料1 令和3年度子ども・子育て支援事業計画進行管理表
- ・資料2 深谷市立幼稚園再編計画
- ・資料3 （仮称）深谷市立こども館建設基本計画（案）概要版  
※資料3については、当日回収
- ・資料4 幼稚園・こども館複合施設の建設について
- ・別紙1 子ども・子育て支援事業計画及び子ども・子育て会議について
- ・別紙2 深谷市子ども・子育て会議 用語と定義について

開会前に委嘱状交付

－ 1. 開会 －

司会（入山課長補佐）

－ 2. 会長挨拶 －

奥富会長

－ 3. 議事

規定により奥富会長が議長となり議事を進行する

（1）第2期深谷市子ども・子育て支援事業計画進捗状況について

（事務局：資料1について説明）

質問なし

（2）深谷市立幼稚園再編計画について

（事務局：資料2について説明）

委 員：市立幼稚園の再編は長年計画されてきたものなのか

事務局：再編の計画は10年ほど前から随時行っていた。第1弾として、明戸・常盤・幡羅の3園を統合し深谷東幼稚園として令和3年度に開園した。

平成30年の再編計画では、3年に1度見直すこととしていたが、ここ1、2年出生数が激減しており、3年に1度の見直しでは間に合わない。間に合わないというのは、幼稚園は3歳児から募集しているが、3歳児の応募が10名に満たないと学級が編制されず休園に向かっていく。残っている4、5歳児が卒園するまでは幼稚園は存続するが、その後は休園となり、園児募集を停止する。花園幼稚園は、一昨年3歳児の応募が5名で学級が編制されず、今は5歳児のみとなっている。

深谷、深谷西、藤沢幼稚園の3歳児の応募は10名前後となっている。もしかしたら、令和8年度を待っている間に休園となる可能性もある。深谷市の公立幼稚園が無くなってしまうのではないかという危惧があったため、新幼稚園の再編については前倒しをした。

委員：障害児特別支援教育体制について、保育園では、医師の診断書、または療育手帳があれば、補助を各保育園へ出しているわけだが、幼稚園については、特別支援の子どもに関して、そういう基準はあるのか。

事務局：幼稚園では、保育園のような基準はない。幼稚園の基準は、1学級35人までで担任が1名となっている。深谷市では3歳児を募集するときに定員を20名、4歳児は25名、5歳児が30名という基準で募集している。それ以上になった場合は、加配という形で、教諭を増員して対応している。なお特別な支援を要する子に関しては、その時々で幼稚園と相談しながら、会計年度任用職員を任用している。会計年度任用職員の人数を合わせると幼稚園の職員の正規率はかなり低い。

現在は、公立保育園の民営化までの間、任期付職員を採用しており、担任教諭のうち約半数が任期付となっている。再編に合わせて、園長、教務、担任については任期の定めのない正規職員での任用を目指したいというのが今回の計画。ただやはり、必要な人数は年度によって変化するため、幼稚園教諭や、保育士免許のある方を会計年度任用職員として採用し、配慮が必要な方の対応をしているのが現状である。

委員：障害児特別支援教育体制については、手厚く人的な配置を行っていただきたい。入園に際しても、保健センターなど他機関と連携し、今後も十分な説明をしながら進めていただきたい。

事務局：入園前や入園後の情報について保健センターと綿密な情報連携を行っている。また場合によっては教育研究所の学校福祉相談員の力を借りながら行っている。人的な配置については、できる限り加配するようにしている。実際に、令和2年から3年になる段階で1.5倍程度の人数を任用した。幼稚園でも支援を必要とする子どもが増えてきた。公立幼稚園は受け皿としても力を入れていくべきだと考えているので、これからも安全安心な運営を行っていくよう努力していく。

委員：特別支援という視点から幼稚園での一例を挙げると、教育委員会からは、施設面では施設の改修など予算面でかなり手厚く行ってくれている。職員についても、支援を必要とする子どもに付く職員を配置してもらっている。情報を早くいただき、教育委員会と相談しながら受け入れ態勢をしっかりと行うことができた。これからもこのような例が望ましいと考えている。

委員：廃止する4園（深谷、深谷西、藤沢、花園）の現在の定員は何名か。それと、現時点の園児数を教えてほしい。

事務局：子ども・子育て支援事業計画における定員は95名である。3歳児は25名、4歳児は35名、5歳児は35名。深谷東幼稚園のみ190名である。

令和4年4月1日時点の園児数は、深谷42名、深谷西44名、藤沢26名、花園14名である。

委員：残りの幼稚園の園児数も教えてください

事務局：桜ヶ丘55名、上柴西69名、深谷東124名、おかべ66名

委員：廃止する4園の現況の園児数を伺ったが、今回作る新幼稚園の定員数が190名ということで今、幼稚園にいる子どもたち以外も新幼稚園に来るだろうという見込みのもとに計画が立てられているという考え方でよいか

事務局：目指しているのは深谷東幼稚園と同規模の園児数。廃止となる4園の規模の園児数が来てくれればと考えている。

委員：正規職員率の向上について、個人的に先生から幼稚園の職員給与や雇用のことを聞いて愕然とした。保護者としては、子どもの命を預けており、先生は本当に熱心に指導して見ているのに、現在の雇用の仕方については残念だと感じている。正規職員を増やしていくということで少し安心をしたが、職員の希望する働き方を細かいところまで考慮していただきたい。

事務局：幼稚園教諭と保育士は同一の職種で採用している。今は、両方の免許がないと試験を受けることができない。職員については、本人に希望は聞き、そのとおりにならない場合もあるが、人事異動により配属先が決まっていく。幼稚園も保育園も担任は正規職員を充てている。ただし、正規職員の中にも任期付職員がいる。待遇については市の職員と同一だが、任期が3年以下で短く、期間経過後は任期満了で退職になる。

幼稚園は副担任や加配などで対応しているが、基本はどの学級も1名の担任である。

できる限り職員待遇は上げていきたいと考えている。

委員：ある幼稚園では、園長と教務主任が同時に代わられた。うまく引継ぎが出来ておらず、保護者が職員に説明するなどしわ寄せがきている。そのため、どの先生が異動してもいように運営の仕方やシステムを考えてほしい。

事務局：そのような状況があることは把握している。昨年度、ネットワークの再整備を実施し、書類が見つからない等がないよう、今年手を付け始めた。随時改良を行い、文書管理や人の流れなどシステム化し統一していきたいと考えているためご理解願いたい。

(3) (仮称) 深谷市立こども館建設基本計画について

(事務局：資料3について説明)

(4) 幼稚園・こども館複合施設の建設について

(事務局：資料4について説明)

委員：建設場所について、立地面では相当良いと思うが、もう少し土の匂いのする例えば仙元山など森の近くなどに建ててもらった方が良かった。また、深谷市では水遊びができる場所が少ない。もし、検討段階であれば、考慮していただきたい。

事務局：場所については、複合施設の規模に基づき、様々な用地を検討した結果、当該候補地となった。

また、深谷市公共施設適正化方針により、施設の多機能・複合化を図ることが市の方針となっている。緑の部分については、道路を挟んで城址公園などもあるためご理解いただきたい。それから、水遊びについてはアンケート結果でも要望が多かった。こども館の中でもスプラッシュテラスを検討しており、子どもが水遊びできるような企画が作れないかと考えているためご了解いただきたい。

委員：建設場所について、旧深谷市産業会館跡地、旧深谷市民体育館跡地と聞いて、かなり広いスペースだなと感じたが、こども館と幼稚園の併設と聞くと、幼稚園の園庭が狭くなってしまうのではと心配している。設置方法など工夫はされると思うが、できる限り園庭の確保をお願いしたい。

事務局：幼稚園の園庭の大きさについては、深谷東幼稚園の2.5倍程度を確保する計画であり、運動会が全学年で行える規模を想定している。深谷東幼稚園では、実際に建物を建てた後や、遊具が配置されると全学年が一斉に運動会をやるのがとても厳しかった。そのような状況を踏まえ、新幼稚園ではできるだけ広い園庭を確保するよう検討している。

委員：議会でも質問があったが、18歳以下の子どもが集う施設と幼稚園が一緒になるという心配はないのか。

事務局：セキュリティについて、こども館と幼稚園で種類の違う施設であるため、全ての部屋が共有として使えるわけではない。基本的には、幼稚園からこども館へは一方通行で行けるようにし、共用部分を安全に配慮したうえで使用できることは想定しているが、こども館から幼稚園へは行けない仕組みを作っていく。ただし、幼稚園の園庭は土日等で幼稚園の休みの日は使用できるようにする。しっかり棲み分けを行い、セキュリティを確保していく。

委員：こども館について、まだイメージもつかないが、調理、工作やイベントなど、こども館で企画をし、子どもをその都度集め、講師を呼び実施するのか。

また、職員については常時配置をするのか どのようなイメージなのか聞きたい

事務局：こども館で実施するイベント等については、4つの基本方針に従い事業展開をしていきたいと考えている。

職員については、常時配備をする。ただし、人数などはこれから調整を行っていく

委員：(仮称) 深谷市立こども館建設基本計画は、いつ頃公表されるのか

事務局：7月下旬の議員全員協議会を経て、どういう形で発表するかは未確定だが、その後に公表できると考えている。

委員：公表後、意見等があればその後に反映していただきたい。

事務局：公表後、いろいろな反響があると思うので、丁寧に対応をしていきたい。

委員：こども館について、視察に行った市と施設名を教えてください。

事務局：上尾市アッピーランド、上尾市こどもの城、和光市わびあ、朝霞市ほんちょう児童館と児童館ではないが、足利市キッズピアあしかがの5施設である。

委員：複合施設の建設スケジュールについて、令和4年10月から設計業務委託を行っていくと記載があるが、ここでの意見は、計画に盛り込んでもらえるのか。

事務局：こども館基本計画については、計画を作るにあたり4,500人に対しアンケート調査を実施し声の拾い上げを行った。また、深谷市もかなり前から児童館のニーズがあることを認識し、積み上げてきたものに対し基本計画を作成した。具体的に変更を加えるということは現状考えていないが、皆さんの承認を得たうえで、次のステップに進んでいきたいと考えているためご理解いただきたい。

## － 5. その他

特になし

## － 6. 閉会－

副会長：以上をもって、令和4年度第1回深谷市子ども・子育て会議を終了する。

(以上、終了)